

見守りケアシステムのあゆみ 介護テクノロジー導入事例

フランスベッド株式会社
法人営業推進課
森 康太

20260225@介護テクノロジー導入・活用セミナー



- ・ 会社概要
- ・ フランスベッドのあゆみ
- ・ 見守りケアシステム 開発のポイント
- ・ 見守りケアシステム 沿革
- ・ 見守りケアシステム M-2R製品概要
- ・ 導入実例・現場の声
- ・ 導入効果
- ・ 今後の予定



会社名	フランスベッド株式会社
本社所在地	〒163-1105 東京都新宿区西新宿6丁目22-1 新宿スクエアタワー 5階
設立	昭和21年6月5日（1946年6月5日） <small>※登記上の設立年月日</small>
資本金	56億450万円
従業員数	1,432名（2025年3月31日現在）
代表者	代表取締役社長 池田 茂
事業内容	ベッド、家具類、寝装品、健康機器、療養ベッド、福祉用具 リネン等製造・仕入れ レンタル・小売り及び販売



- 1949年 当社創業者池田実が「双葉製作所」創立
スクーターなどの車両用シートの製造を開始
- 1955年 「分割式ベッド」の製造販売を開始。「フランスベッド」を商標として使用
- 1961年 「フランスベッド(株)」に商号変更
- 1977年 医療福祉施設向けベッドを開発
- 1983年 フランスベッド販売(株)において、日本で初めて療養ベッドの家庭向けレンタル事業を開始
- 1990年 介護支援ベッドを発売・レンタル開始
- 2000年 ヒューマンケアベッドを発売・レンタル開始
- 2005年 低床ベッドを発売・レンタル開始
- 2023年 超・超低床フローアーベッドを発売・レンタル開始
「寝ながら考えましたのTVCMで話題」
- 2020年 マルチポジションベッドの発売・レンタルを開始



シート市場の競争が激化するなか、シート製造技術を活かして、自社ベッドを開発するメーカーに転換

日本人の体格や日本の気候風土に適したベッドづくりを目指し、スリープ研究センターを設けて人間工学的な寝具の科学と医学的な睡眠の科学を追究



椅子に座る生活への需要が高まるなか、ベッドフレームの木工技術を活かして、リビングやダイニング家具を開発

商品やサービスを通して、暮らしのなかで豊かさや優しさを感じられるモノづくり

生産から商業まで環境に配慮したサステナブルな商品やサービスを開発

IoT(モノのインターネット)を睡眠環境の改善や寝業の快適に活用

● 1949 双葉製作所(創立)
スクーター用シートから三輪や四輪などの車両シートを製造

● 1955 日本の狭い住宅事情に合わせ、「昼はソファ、夜はベッド」として使える分割ベッドを開発



● 1957 フランスベッド販売株式会社(設立)

● 1961 フランスベッド株式会社(商号変更)
フランスベッド



● 1965 ホテル向け事業を開始



● 1967 「国民ベッド」の愛称で大衆用に開発
全国が普及

● 1969 塑性木材[ネオウッド]による家具を生産



● 1977 医療・福祉施設向けベッドを開発



● 1980 健康機器を開発



● 1983 フランスベッド販売株式会社にレンタル事業部を創設



フランスベッド株式会社

モータリゼーション

生活様式の西洋化

少子高齢化社会

介護保険制度開始

合併
2009

インテリア事業

持続可能な社会

デジタル社会

フランスベッドメディカルサービス株式会社

● 1963 日本衛生寝具株式会社(設立)
病院基準寝具販売
リース洗濯事業を開始



日本の高齢化を見据え、公的介護保険制度より前に、日本で初めて在宅向け療養ベッドや医療機器のレンタルサービスを開始

介護保険給付の対象となる福祉用具を中心に開発し、市場に投入

介護人材が不足するなか、省力化や介護負担軽減につながる商品を開発

独自機能およびICTテクノロジーを活用し、介護者の安全を見守ります。

「フランス」という国名がつく理由

1955年に分割ベッドが生産された際、商品名を社内公募し、その中に「フランスベッド」がありました。海外旅行が自由化する前、フランス・パリ・パリジェンヌ・・・と、その洗練された洋風イメージが商品と合い、商標として登録します。ベッド製造が軌道に乗った1961年、「フランスベッド株式会社」に商号を変更しました。

売らないで「レンタル」にした理由

療養ベッドを購入されたお客様から、わずか3か月で下取りのご相談を受けたのをきっかけに、高齢者向けには売らない方がよい商品があることを知りました。「必要な時、必要な期間だけレンタルする」という福祉用具貸与事業を、介護保険制度が始まる約20年前に日本で初めてスタートさせました。



サステナブルを先取り
日本初の福祉用具
レンタル開始

● 1983 療養ベッドのレンタル事業



● 1987 フランスベッドメディカルサービス株式会社
フランスベッド販売株式会社のレンタル事業部と合併

特殊寝台



体位変換器



車いす



歩行器



省力化/介護負担軽減/自立支援



見守りケアシステム M-2

眠り解析センサー M-Sleep Bio



低床サイドアップ3モーターベッド

FBZ-N836R-P4/SU

【介護現場の困りごと・ニーズ】

- ・ 床に設置するシート型のタイプは、利用者が乗り越えてしまい危険。
- ・ アラートがならず利用者が離床している。
- ・ 介護者とともに離床する（電源OFF）が、戻った際に電源を入れ忘れてしまう。
- ・ 設定方法が簡単で誰でも設定できるようにしたい。
- ・ ベッド周りの配線も気になる。
- ・ 利用者の動きなどが後で確認できないか？



誰でも簡単に設定できるセンサーをベッドに組み込むことはできないか？



見守りケアシステムの沿革

- 2012年 見守りケアシステムの開発スタート
- 2013年 見守りケアシステム「M-1」販売開始
起き上がり通知の正確性とスピード感の評判が高く
約900施設導入
- 2017年 見守りケアシステム「M-2」販売開始
「M-1」からの機能向上及び現場要望に応える
・体重測定機能 ・Wi-Fi機能
約2,500施設導入
- 2025年 見守りケアシステム「M-2R」販売開始
「M-2」に生産性向上に資する新機能を搭載
・タスク管理機能 ・カラー液晶表示、
・新しいアプリ「M-2 Care System」
見やすいUI
iOS、Androidでも閲覧可能なアプリ。



見守りケアシステム「M-2R」概要

ベッドが利用者様の状態と安全を見守り、介助負担を軽減します。
 ベッドに内蔵した4つのセンサーが利用者様の状態や体動、離床動作を検知し、
 ナースコール、パソコン、スマートフォンへ通知します。



- 簡単操作設定
- 一時停止からの自動復旧
- 体重測定機能
- ベッド内蔵で足元安全
- 訪室回数の低減



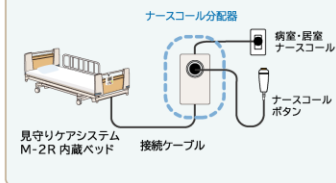
■ 選べる5つの通知モード。ベッド上の動きをお知らせします。

1. 動き出しモード	2. 起上がりモード	3. 端座位モード	4. 離床モード	5. 離床管理モード
離床予知				
<p>動き出しを通知!</p> <p>利用者様がベッド上で動き出した時に通知します。</p>	<p>起上りを通知!</p> <p>利用者様がベッド上で起き上がった時に通知します。</p>	<p>端座位を通知!</p> <p>利用者様がベッド上で端座位になった時に通知します。</p>	<p>離床を通知!</p> <p>利用者様がベッド上で離床した時に通知します。</p>	<p>戻らないことを通知!</p> <p>離床後、一定時間経過してもベッド上に戻らないことを通知します。</p>
離床した時も再度通知します。				

離床時も再通知!

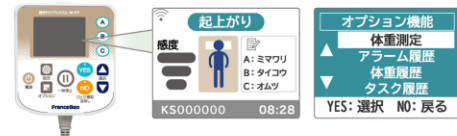


■ ナースコール設備をつなぐ分配器が必要です。(別売)



らくらく簡単設定 液晶手元コントローラ

操作方法が表示されるので、取扱説明書不要で、どなたでも簡単に設定・操作ができます。
 誤操作を防ぐキーロック機能付きです。



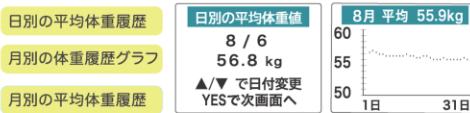
自動見守り再開 安心機能

介助時や食事の際に一時停止しても、ベッド上に戻れば再設定することなく、自動で再開します。



体重測定機能

利用者様のおよその体重を測定できます。
 体重の履歴表示が可能です。



タスクボタン機能

A, B, Cの3つのボタンに登録済みの行動(タスク)を割り当てられ、それぞれボタンを押した時刻の記録を残せます。



スマホ、タブレット、複数のPCでリアルタイムに情報共有、操作が可能。

タイムリーなケア、リスク予測管理、ケアの質の向上、職員様の負担軽減につながります。



PC 複数のPCから、リアルタイムでモニタリングできます。

スマートフォン リアルタイムでモニタリング。

アプリから見守りモードの設定変更が可能。
 業務省力化がはかれます。



アラート表示

生活リズム表示

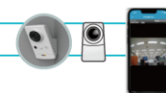
タスク(行動)履歴

日毎のデータ表示

体重履歴

オプション

- 呼吸・脈拍数
- ベッド連携
- 周辺温湿度
- 簡易ナースコール
- カメラ連携
- 簡易コントローラ



スマホ表示例

高精度な荷重センサー

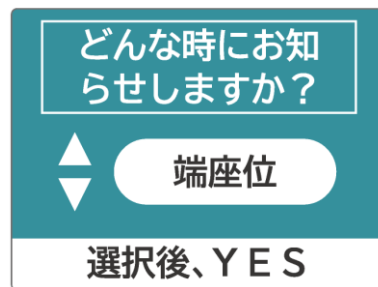
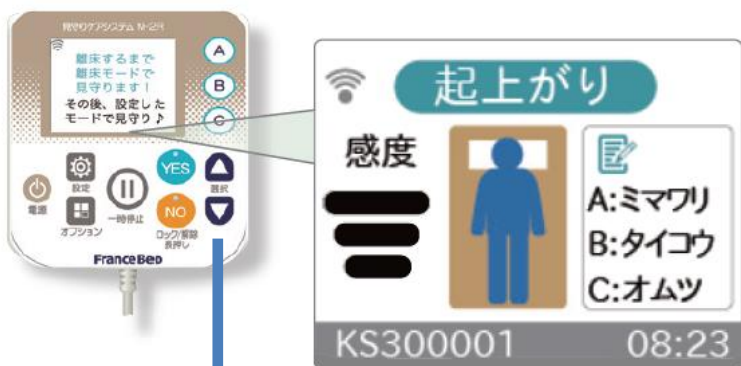
荷重の変化が伝わりやすい場所にセンサーを4つ内蔵させることで、荷重移動の検知を高め、ベッド上のご利用者の動きを正確に把握。



正確性を高めることで誤報の抑制を図ることを実現。

内蔵式のためベッド周りの配線による転倒事故や断線トラブルなども回避。

らくらく簡単設定



設定は

『YES』

『NO』

選択『↑』

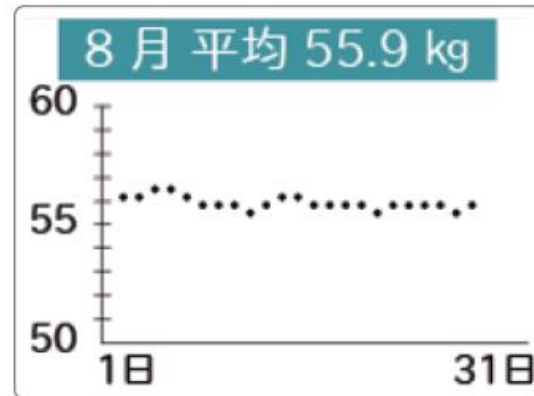
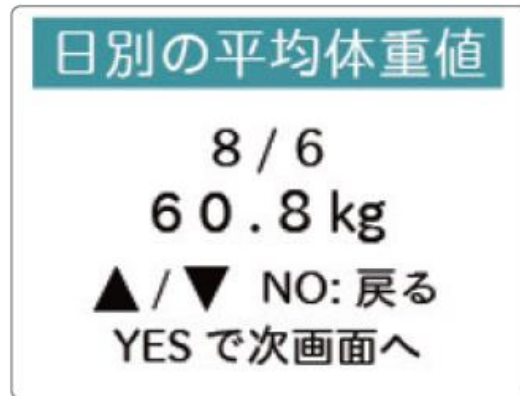
選択『↓』

の4つのボタンで画面の

ナビゲーションに従って設定します。

体重測定機能

利用者様のおおよその体重を測定できます。
体重の履歴表示が可能です。



日別の平均体重履歴

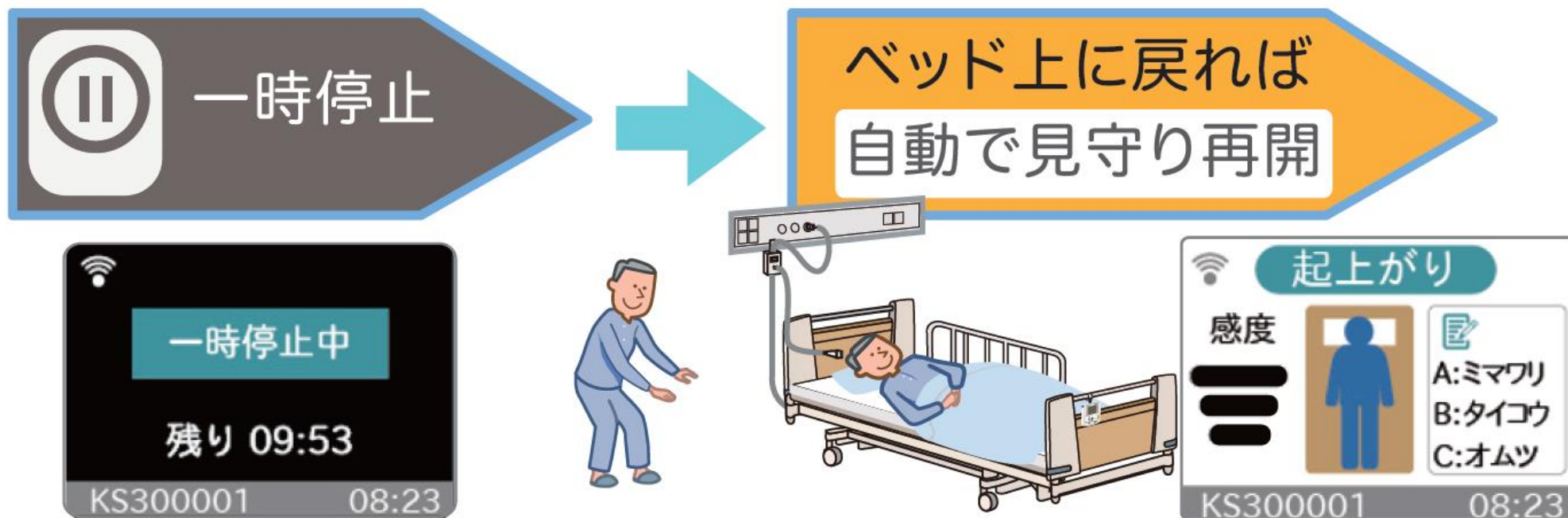
月別の体重履歴グラフ

月別の平均体重履歴

- ①日別の平均体重履歴・・・1日の平均体重が過去6ヶ月分表示されます。
- ②月別の体重履歴グラフ・・・1日の平均体重を月ごとにまとめたグラフが過去6ヶ月分表示されます。
- ③月別の平均体重履歴・・・1ヶ月の平均体重が過去6ヶ月分表示されます。

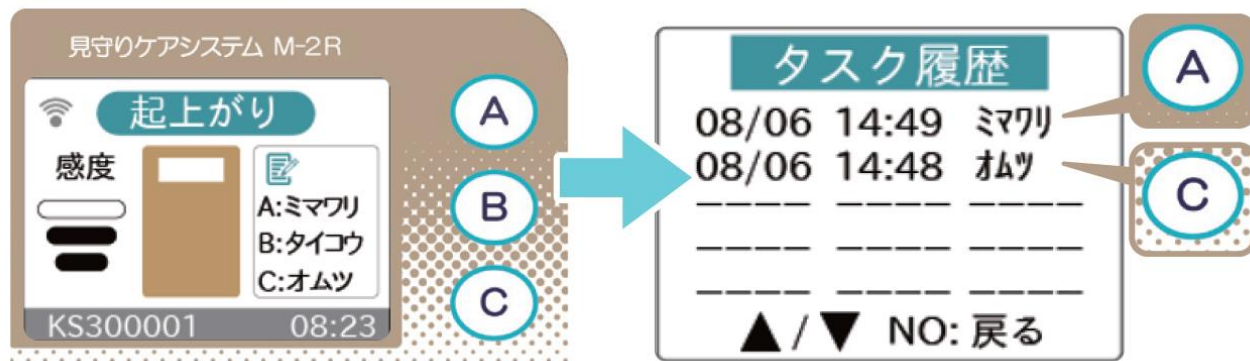
自動見守り再開機能

介助時や食事の際に一時停止しても、ベッド上に戻れば再設定することなく、自動で再開します。



タスクボタン機能

A,B,Cの3つのボタンに登録済みの行動(タスク)を割り当てられ、それぞれボタンを押した時刻の記録を残せます。



アラートログ	タスクログ
更衣	201 Sample User2 2025年09月03日 00時39分00秒 >
更衣	201 Sample User2 2025年09月02日 07時46分00秒 >
リハビリ	201 Sample User2 2025年09月01日 06時53分00秒 >
見回り	201 Sample User2 2025年08月31日 19時16分00秒 >
排泄	201 Sample User2 2025年08月30日 10時53分00秒 >
排泄	201 Sample User2 2025年08月29日 07時41分00秒 >
口腔ケア	201 Sample User2 2025年08月28日 04時08分00秒 >

リアルタイムでのモニタリング



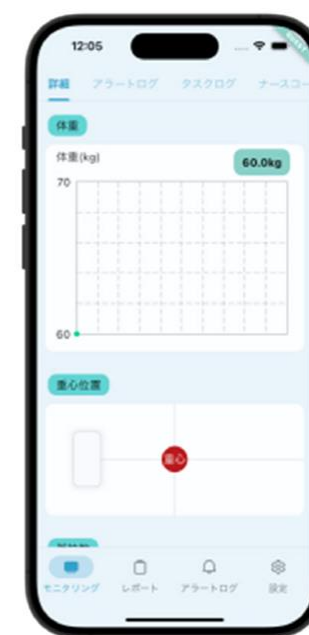
モニタリング



アラートログ



体重、重心位置



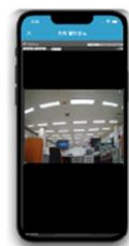
アラート通知



カメラボタンを押す



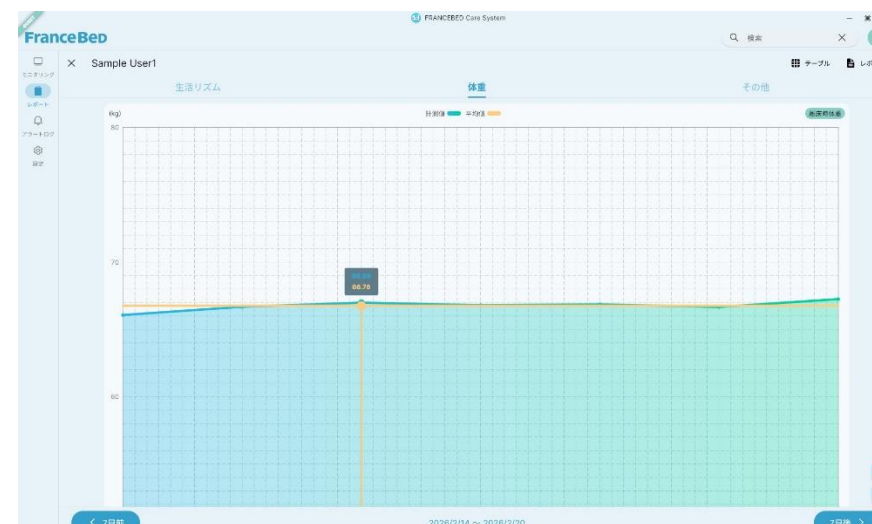
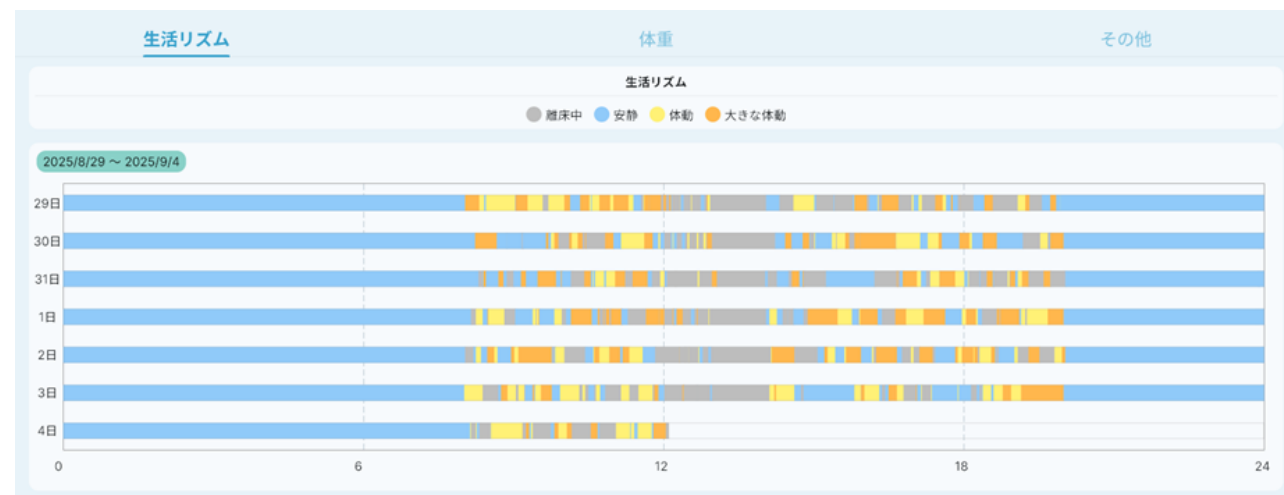
ネットワークカメラ



スマートフォンに表示

各種ログデータ

1F	
動き出し	201 Sample User2 2026年02月20日 03時05分00秒
端座位	101 Sample User1 2026年02月19日 20時08分00秒
動き出し	201 Sample User2 2026年02月19日 02時35分00秒
動き出し	201 Sample User2 2026年02月18日 19時47分00秒
動き出し	101 Sample User1 2026年02月18日 11時25分00秒
離床	101 Sample User1 2026年02月17日 11時43分00秒
起上がり	201 Sample User2 2026年02月17日 05時51分00秒
起上がり	101 Sample User1 2026年02月16日 19時23分00秒
動き出し	201 Sample User2 2026年02月16日 05時29分00秒
最端部	101 Sample User1 2026年02月15日 19時36分00秒
動き出し	201 Sample User2 2026年02月15日 07時19分00秒
端座位	201 Sample User2 2026年02月14日 16時50分00秒





社会福祉法人 友愛十字会
施設長 鈴木 健太 氏

「見守りケアシステムM-2」で 介護労力の軽減を図る。 —ベッドそのものが介護ロボット— 特別養護老人ホーム 友愛荘 (社会福祉法人 友愛十字会)

東京都町田市の特養友愛荘（110床）全床に「見守りケアシステムM-2」を導入。見守り機器はナースコール経由型、カメラセンサー型、バイタルセンサー型がある中でナースコール対応型は失報がほとんどなく、何より使い勝手が良いと評価いただく。

現場の声

- Aさんは起き上がり時、Bさんは端坐位になったときとか、利用者さんごとに通知モードを設定します。実際にアラームが鳴って部屋に駆け付けると、本当にスマホの画面（イラスト）そのままの姿勢なんですよ。これにはびっくりしました。
- これまでのセンサーは後付けで、踏んだら警告音が鳴るものだった。コードが露出していて見た目もよくなかった。寝返りをしただけでナースコールが何度も鳴ってしまい、異常がないとわかっていても職員はいかねばならなかった。そこが改善されただけでも全然違いますよ。
- 必ずしも利用者さん全員の通知モードを設定することはないんです。その人の症状や日々の行動パターンに合わせ、通知モードを細かく設定すればいい。そうすることで、本当に駆け付けが必要なナースコールか否かを見分けることができます。特に人が足りない夜勤では助かります。
- リモコン（液晶手元コントローラ）操作法が簡単で、機械に弱い人にはありがたい。イエスとノーしかないので、1回の説明を聞けばだいたい覚えてしまう。取り扱い説明書はいりません。
- 体重測定機能があります。1日の平均体重が測定され、なおかつ1ヶ月の体重変化をグラフ化して見ることができるようになった。
- 行動履歴の分析ができ、そこからある程度、利用者さんの転落・転倒リスクを予測することができる。
- これまでの見守り機器は、介助時や食事の際に一時停止をすると、戻ったときに再度設定が必要で、それを忘れてしまうことが多かった。今度のシステムは利用者さんがベッドに戻ると自動で再開します。この機能はとても便利です。

掲載記事はこちらから ⇒



【① 特別養護老人ホーム】

- マット式センサーと違い、利用者が予想範囲外の位置からベッドを降りる際に起きていた事故を予防できた。
- 4段階の設定と3段階の感度調節が出来る為、様々な状態の利用者の状況に対応できケアプランも立て易くなった。

確実なお知らせ

業務改善

【② 特別養護老人ホーム】

- ナースコールに繋げることが出来、利用者の行動をセンサーが段階的に反応し、転倒・転落のリスク軽減に寄与している。
- 電源を抜いても、再度電源を入れれば自動的に前回の設定が再開される為、職員の負担軽減に繋がっている。
- 液晶も見やすく、簡単に操作できるため新規採用職員への操作指導も適正に実施することができる。
- ベッド上でのおよその体重測定も栄養管理面での配慮につながる。

事故の減少

簡単設定

業務改善

【③ 特別養護老人ホーム】

- 人材不足が顕著、正規の介護職員の負担が大きい現状。
特に介護職員が入浴介助に追われる際などは、フロアに残る職員で30人程度の入居者をみないといけない状況。
施設内で起きた重大事故の内、約3割が転倒による打撲や骨折だった。
職員は常に転倒のリスクを抱えていたが
ステーションのモニターで状況が把握できるようになり、事故も減少し
夜間を含め職員の負担軽減も大幅に軽減することができた。

事故の減少

負担軽減

【④ ショートステイ】

- 御利用者に合わせて活用できており、誤作動も少ない。
- ナースコールが押せない方、認知症等で夜間に特別な動きをされる方の見守り機器として使用している。
- ベッドからの転倒・転落 事故件数も減少傾向にある。
- 不必要な訪室による睡眠の妨げもなく、睡眠の質改善に繋がっている。

誤報なし

事故の減少

睡眠の質の向上

事故の減少

負担軽減

確実なお知らせ (アラート)

業務改善

離職率低下

簡単設定

誤報なし

睡眠の質の向上

利用者に応じた設定

月に2件程度発生していたベッドからの転倒事故がほとんどなくなった。
誤報もなく、無駄な訪室回数が減り負担軽減につながっている。
負担軽減が図れることで離職率も2%台でとどまっている。
近隣の施設にも紹介したい。 など



「見守りケアシステム」は、関連する様々なシステム（介護ソフト・インカム・他センサーシステムなど）との連携を強化させていただき、現場の皆様の生産性向上につながるよう進めてまいります。

また「見守り分野」だけでなく他の「介護テクノロジー利用の重点分野」に貢献する製品の開発を進めております。

このたび、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）が公募する

令和7年度 介護テクノロジー社会実装のためのエビデンス構築事業【開発補助】において

「移乗支援機能を有する多機能介護ベッド『マルチ支援ベッド（仮称）』の開発」を採択いただきました。



今後も現場の負担を軽減するとともに安心・安全な環境の実現にむけて活動してまいります。

ご清聴ありがとうございました

